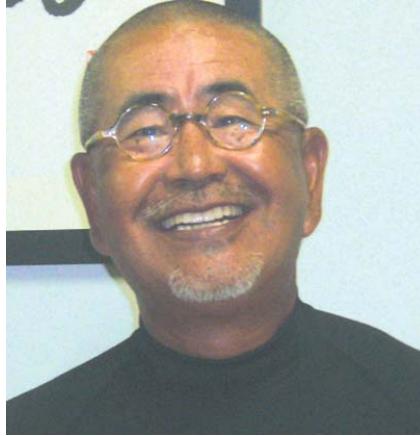


今年10周年! YOSAKOIソーラン



いいじま 飯島秀昭さん

1950年埼玉県生まれ。床屋を営む職人気質の父の背中を見て育ち、70年に自身も美容師免許を取得し上京する。サロン数店舗を経て、原宿の今井英夫氏のサロンに入店。カリスマ美容師の草分け的存在として絶大な人気を得、講師としても新カット技術の普及に努めた。

79年に来日し、知人の美容室チェーンに入店。不利な新参者の立場や言葉の壁もものともせず頭角を現し、半年で全店ナンバー1にのし上がる。82年に美容室「SOHO(蒼鳳)」1号店を開業し、「人を育てる」「人を信用する」という日本の考え方に基づいた経営で伯国内第2位の美容室チェーンに育てられた。

人生の師・京セラの稻盛和夫氏の説く「利他の心」「共生」を伯国にも反映させたいと、96年に「ブラジル掃除学ぶ会」第1回目を開催。企業の社長らを集め伊ビラブエラ公園のトイレ掃除をし、伯社会を駆けめぐらせた。以来16年間、平日朝4時半から6時まで街の掃除を行い、着々と掃除の輪を広げている。

若者の日系社会離れに危機感を抱き、若者を呼び戻し日系社会を活性化するための手段として2003年に「YOSAKOIソーラン大会」を開催。大きな反響を呼んだことで毎年開催を続け、今に至る。

いわゆる「社会に必要とされる会社を作れ。自分の使命感を見出しなさい」と言つた。じやあ俺がブラジルに来た意味



飯島秀昭氏、大いに語る

今年もそろそろ鳴子が聞こえる季節——。2003年の第1回大会開催からわずか10年間で、すっかりコロニアの一大イベントに成長したYOSAKOIソーラン(以下、YOSAKOI)。大会には毎年約20チーム前後が参加するが、全伯に点在する約80チームが活動中だ。今年7月29日に聖市イベント会場「ヴィア・フンシャル」で開催される第10回記念大会には、本場・北海道で行なわれた大会の昨年度の優勝チーム「夢想連えさし」もはるばる駆けつける。YOSAKOIを

ブラジルに持ち込み、その発展に情熱を傾げた仕掛け人・飯島秀昭さんの熱い想いを聞いた。

元々は「南中ソーラン」が感動的で素晴らしいと聞いて、その講演録を探したのがYOSAKOIを知ったきっかけ。荒れた学校がソーラン節で立ち直るという話で、探していたら北海道出身で掃除の会の仲間が講演録をYOSAKOIのビデオをつけて送ってくれた。ビデオを見て「ひょっとしたらそれで日本の若い子を呼び戻せるかも」と思った。ずっと若者を呼び戻す手段がないと思っていた。というのも、今は「ジャボネス・ガランチード」(Japones Garantido)日本人はでも高齢化して日系社会を良くしようとしない人がいない。だから若い子の組織を作つて、日本の習慣や教訓を伝えていきたいと思った。そうすればいつかブラジル人にも日本的な習慣が身に着き、社会全体にとって大きなメリットになるはず。

ビデオを盛和塾の皆さんにも見せたら「これはすごい、日系社会が活性化するかも」とやっぱりすごい反響思つて、「俺がやる」と手を挙げた。それでだれかがやらねあかんと思つて、「俺がやる」と手を挙げばいいらしいものがあつても、砂

の上に立てた城のようなもの。ブラジルに日本の道徳を根付かせるという上では、砂漠で水田を作るようなもので大変だけど、YOSAKOIを通じていつか花が咲くかもしれない。実際、大会を始めたばかりの頃は、12時開演と言つても皆「どうせ遅れる」と思つて遅れて来ていたのに、今では開演前には集まるようになってきた。YOSAKOIの影響は踊り手だけじゃなく、ちゃんと観客の間にも広がつていはる。」といふようにして生まれたんですか?

■日伯社会に貢献したいという想いはどのようにして生まれたんですか? 盛和塾に入つて19年目になる。昨年くらいから、オープニングから涙が出ちゃつて見てられる。いくらいすごくてレベルが上がつた。踊り終わつた子達の嬉しそうな笑顔。あれは金では買えない。観客がリズミカルに跳ねながら踊つていく姿を見ると、「俺生きてる跡を残してゐるな」と思つた。その稻盛さんが美化・共生を説いていた。そのときに「社会に必要とされる会社を作れ。自分の使命感を見出しなさい」と言つた。じやあ俺がブラジルに来た意味

3、4年前からルアネー法で、とにかく問題。YOSAKOIを前後でやつてもいい団体がどうサポートしながらやつてつかの問題。YOSAKOIを前後でやつてもいいんじやないかとも思つてい

記念大会、7月末に開催
チーム「夢想連えさし」も参加

■ブラジルで始めようと思われたきっかけは?



第1回目はガルボン・ブエノ街も舞台に



第9回、初出場ながら大健闘のユイ・ソーラン



第9回も優勝を飾ったグルッポサンセイ

第10回大会募集要項
締め切りは6月15日

ブラジルYOSAKOIソーラン協会(浜崎マルセリーノ会長)では、第10回ブラジルYOSAKOIソーラン大会を7月2日を募集する。A KOIソーラン大会を7月2日(火曜日)から8月15日(木曜日)まで参加団体を募集する。条件は各チーム最低12人以上の

踊り手がいること、国籍は問わない。カテゴリーは子供部門(平均年齢が15歳未満)、大人部門(平均年齢が15歳以上)の2部門。申込みはサイト(www.yosakoisoran.org.br)、問い合わせは同協会(11・3541・1809)まで。

YOSAKOIは使い方によつては、そのアクションの「つよ」YOSAKOIがある。稻盛さんは何度もKOKOがある。稻盛さんとは何度も会つて、俺のやつてることを意義付けてくれたと思う。YOSAKOIは使い方によつては、その企業が税金の一部を文化事業認定で支払うことでの活動を資金的に支援する制度の利用も始めた。今まででは認可が下りるのがギリギリで資金繰りが難しかつたけど、もっと早い段階で認可をもらつて、もうと多くの企業から援助を受けられるようになれば理想的。でも、今はまだこういったビジネスの出来る跡継ぎがない。俺が死ぬまでやらなきゃダメかな:(苦笑)

演技の面では、動きのキレや絆が出てくればもういい。ブラジルは10年で商品作りはした。俺は10年で商品作りはした。資金的に飯島の思いで続けてきたけど、いつまでも俺がやつてたら周りが成長しない。これからは企業体系を作つて関わる人たちは体力もあるし運動神経もいいし、力派エイラミみたいな自分の中の力もある。これから日本人に出来ないような動きが段々出てきて、それが生活していく組織作りをやっていかないと。あとは、やりた